耕木杜の家づくり

いい建築とは、暮らしにいい影響を与える空間であるべきです。
そのためには、土地の性質、住む人がそこに暮らす意味など、暮らしの本質をくみ取り、つくり手の都合ではなく、住み手が使いこなせるような、バランスのいい空間を作ることが大切です。

耕木杜の建築では、複雑な形や大きさを強調するのではなく、威圧感のない、ひかえ目で解りやすい形を心がけています。
建物の中も複雑にせず、見通しの良い事、照明器具などは必要なところに必要なあかりを自然にあるように配置します。器具が目立つと空間が感じにくくなるからです。
窓の大きさや高さも人間の心理に大きな影響を及ぼすところなので大変気を遣います。
こうして建物全体を控えめながら　時代を超えても飽きのこないデザインを作っています。

色やディティールを主張しなくても、信頼のできる素材なら、作り手側が確かな技術を持ち、真摯に向き合って作ることで、素材は生かされ良い表情となります。
そうして作ったものが、結果的に耐久的にも長い間大切にされる存在となっていくと思います。

自然とのつながり、道具と技のつながり、妥協しない手仕事、人間の持っている感性、それぞれのバランスがとれた時、矛盾のない良い家が生まれ、そこで暮らす人たちにとって、穏やかな暮らしの為の器になってゆきます。

ＨＰコラム「新しい建築」NO.1（2010 年 9 月）より抜粋

（耕木杜）

安全にくらす

「耐震」「免震」を合言葉に、住宅建築の関心は家の強度に集中していますが、より突き詰めて考えると、暮らしの安全に最も大切なのは「空気」だと考えます。

今、私達は数えきれないほどの化学物質に囲まれて生活をしています。
外も内も新建材ばかり、有機溶剤系の塗料が塗りたくられた中で、生活用品・工業用品に至るまで、もはや化学物質に触れない生活は一日もありません。
それらは様々な有害物質を発生し、知らず知らずのうちに汚染された空気の中で呼吸し、暮らしています。
これは地球の生態系において歴史上、初めての経験です。
汚染された空気は絶え間なく体中を巡り　知らず知らずのうちに体内に強烈なイメージを残します。
成長過程の子どもたちにとっては、大人以上に、精神と肉体に、日々大きなダメージを受けて育つことになり、結果として、これからの未来へどんな影響を及ぼすことになるのか図りしれません。

そして非常に厄介なことは、空気は目に見えないということ―

専門家は 定期的な室内の換気や空気清浄を機械的に行うことを推奨していますが、24 時間強制的に換気をしなければ暮らせないような家をつくること自体が誤りなのだと気づくべきです。

これからわたし達が真剣に取り組むべきことは、空気を汚さないものづくり。
化学物質の発生しない素材を使い、中気密で自然に空気が出入りする空間をつくることが、安全な家のスタートラインです。

ＨＰコラム「新しい建築」NO,12（2011 年 8 月）より抜粋

（つくば市Ｓ邸）

人を知る～設計～

プランニングで最も大切にしていることは、構想を線に落とす前に、住み手を知るということです。

・どこで産まれ
・どのような環境で育って
・どんなことに興味を持って大人になったのか

その人の価値観や人生観の根本はここにあります。
この核心部分を外さなければ、ブレることはありません。

そしてそこに住む人がどのような暮らしを求めているのか、どのような趣味や感性の持ち主であるのかをしっかり理解したうえで、建築に結び付けてゆきます。

建てられたものが、どんなに芸術的な形であっても、使い手の感性に響くものでなければ、いい建築とは言えません。
特に家には、住み手の「暮らし」というはっきりとした目的があります。
そのためには、「人を知る」ことが最も重要だと思います。

近年の建築を見ていると、建築に携わる人たちが、建築そのものに夢中になってしまい、そこに暮らす「人」を忘れているのではないだろうか、と疑問に思うことがよくあります。
どんな技術や知識よりもまずは「人」。
人を知ってこそ、的を得た建築が生まれます。

ＨＰコラム「新しい建築」NO,11（2011 年 7 月）より抜粋

（茂原市Ｏ邸）

素材

現代人は自然から隔離されてしまうことが多くなり、五感や感性が鈍くなってきているように感じます。
耕木杜の建築が、家づくりに無垢の木や自然素材にこだわり、庭に自然味のある樹を植えたりするのはそのためです。
無垢の木は傷みが早いと心配する人もいますが、大切なのは、素材にちゃんと触れて傷まないように大切に使うこと。

また、時間経過の移り変わりを楽しむことも豊かさの一つだと考えます。
時間と共に変化し成長し朽ちていく木や、漆喰や土など自然素材を人の手で塗った壁は、時をこえ、表情豊かに、とても美しいのです。

耕木杜の家は軒天、外壁、室内、天井、すべて左官で仕上げます。
漆喰や土は優れた調湿機能を持ち、多湿な日本風土に最も適した素材です。住環境の中で呼吸し、無垢の木材とともに、人間にちょうど良い中気密の住環境を生み出してくれます。

現代の殆どの住宅では、コスト削減や作業時間短縮といった作り手の都合、汚れが落ちやすいなどの利便性を求めて、素材は自然からどんどん離れてしまいました。

素材選びで大切なことは、皮膚にぬくもりを感じ、共に呼吸できるかどうか。
人も建築も自然の中に存在するもの。
快適な空間は、土地の気候に合った自然素材を選択することからはじまります。

ＨＰコラム「新しい建築」NO,10（2011 年 6 月）より抜粋

（つくば須田帆布）

デザイン

デザインとは形ではなく、使う人の感情や心理状態も含めて、空間を構成しバランスを考えてゆくことです。
デザインの本質は、その空間の主人公となる人間が、心地よいと感じることだと思います。
デザインに生活を合わせるようでは本末転倒です。

建築デザインはとても複合的で複雑です。
まず土地のスケール感、太陽の光、空気の流れなどを感じ、大きく空間を認識し、配置することから出発し、素材を選びながら、目的に応じてどういう形で、どのように作っていくのかを決めていきます。

その中で住み手の目的にマッチした寸法や構成を整え、一つの統一した意識でデザインしていくと、心地よい空間が生まれてきます。
建築とは、「住み手がいつでも安心して過ごせる居場所」をつくることをデザインする、という事なのかもしれません。

日本の風土や色彩、人の気質や感性に応じた日本らしいデザインの形を、これからの新しい建築の中にも映し出されていくべきと考えます。

ＨＰコラム「新しい建築」NO,3（2010 年 11 月）より抜粋

（耕木杜事務所）

木のそばで暮らす～植栽～

人間は地べたから派生した生き物です。
地べたは大地が何万年もかけて作り上げた「私のための布団」。
一戸建てに住むということは、地べたに足を付けて日々の生活を送るということ。
動植物の関係で人と木はとても相性がよく、生活の中の自然感が、精神状態に大きな影響を及ぼすことは良く知られています。
そこで大切なのが植樹です。

木にも様々な相性があります。
自分達の暮らしに合った木を心地いいと感じる向きに植えることが大切です。
そして、一度植えたら人の都合でハサミを入れないという覚悟が必要です。
人の都合で切ったりすると、木の精神状態が壊れ、周りにいる人へ悪影響を及ぼします。

人が一方的に切り詰めない限り、雑木林のようにのびのびと成長し、木の葉々は隣の木と会話をするようになります。
力強く頼りがいのある幹や、冬に枝先を繊細に見せる細い木など多様な状態があると、より会話も弾みます。

人も家も木も、手をかけ目をかけ時間をかけて育てるものです。
地べたに素直に素性よく植え育てた木は、雨の中で鮮やかな色彩を放ち、太陽のもとで輝き、花が咲き、実がなり、落葉し、また新しい実生の種が芽吹きます。
そして、すぐそばで繰り返される大地の自然のサイクルの中で、人の五感や感性は豊かに健全に育くまれてゆくのです。

ＨＰコラム「新しい建築」NO,5（2011 年 1 月）より抜粋

（耕木杜工房）

家具

耕木杜

室内の構成に欠かせない家具選びの大原則は、
「形、大きさ、デザイン、素材などが空間を邪魔しないこと」

基本的に、自然から成り立っている素材同士はとても相性が良く、無垢の木と漆喰や土の壁の空間には、やはり無垢の家具がよく合います。

しかし、たとえいい素材を使って高い技術で作られていたとしても、デザインががんばりすぎていると、空間を邪魔しかねません。
また、経済を優先し、目に見える部分には無垢の木を使っていても、隠れる部分にベニヤや集成材が使われていることがほとんどです。

耕木杜は家具も作ります。建物と同じようにすべて無垢の木で作り、塗装はしないので、室内空間とともに呼吸をします。
デザインも部材を最小限に構成し、シンプルにしながらもしっかりと強度を持たせています。

品格のあるデザインとは、うっかりすると見逃してしまうくらい控えめで目立たないもの。
形や大きさ、素材感をしっかり吟味しながら、空間に合ったいいものを見つけていきましょう。

新しい家具を入れる前には、まずは日々常にきれいに掃除をすることが大切です。
空気の流れが良く、手入れが行き届いた部屋には、いい気が流れています。

（つくば須田帆布）

有限会社 耕木杜　299-4103 千葉県茂原市千沢 1099-8　TEL: 0475-30-9501 / FAX: 0475-30-9502　www.koubokusha.co.jp